

1-2-1 県指定・新井家

〈所有者〉 高山市

〈所在地〉 上岡本町1丁目590番地

〈県指定〉 昭和50年7月17日

飛騨民俗村構内

(旧所在地 大野郡清見村池本)

〈時代〉 江戸時代後期

〈員数〉 1棟

主屋(1棟) 桁行15.8m、梁間10.9m、切妻造平入り、板葺、南面下屋付属板葺

この家は、高山市の西に隣接する清見村池本の小鳥川沿いにあった。背後に山が迫り、狭い水田の間にあった。建築時期は江戸後期と推定され、明治43年に4寸の垂木に取り替え、2mの積雪にも耐えられる屋根に改造している。

間取りは、広い「オエ」を中心に「ニワ」、「ダイドコ」、「チョウダ」、「ブツマ」、「デイ」を周りに配する。前側は広い「エンゲ」となり、「マヤ」は家の中に取り込んでいる。雪が多く寒い地方にあって、馬が家族同様に大事にされていたことがわかる。「ブツマ」には仏壇と床があるが、この部屋の鴨居には蛤刃鉾の痕がある。オエから階段を昇ると、2階は広い1部屋の空間となる。簀子床で、蚕が飼われていた部屋である。

外観は低く、どっしりとした感じを与える。構造は、1間毎に梁をかけて束を立て、母屋を支えている。飛騨の里へ移築後、屋根を改造し、煙出しをつけ、部屋の換気を考えた。小庇にはムクリ破風をつけているのが目につく。樽板葺建物の標準的形態を持つ。

昭和45年11月から翌年6月にかけて、民俗村の現在地に移築された。平成2年に樽板屋根の葺替を行なっている。

参考文献

『高山の文化財』36～37頁 高山市教育委員会発行 平成6年